

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284132

研究課題名(和文)「コモンズ」をめぐる思想・理論・社会的実践に関する地理学的研究

研究課題名(英文) Geographical Research of the Commons. its intellectual history, theory, and social practice

研究代表者

遠城 明雄 (Onjo, Akio)

九州大学・人文科学研究科(研究院)・教授

研究者番号：00243866

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「コモンズ(共有財・共有すること)」をめぐる諸問題を地理学的視点から検討するもので、研究者を三班に分けその成果を集約した。思想・歴史研究では、とくに19世紀以降の欧州と日本におけるコモンズ・公共空間をめぐる対立の諸相を明らかにした。理論・方法論研究では、多様化するコモンズ問題を分析するために、「物質性と表象」という枠組の有効性と限界を検討した。社会的実践研究では、基地問題、風景、社会関係資本などを主な対象に、コモンズ形成の実践と支配の緊張関係を具体的に解明した。

研究成果の概要(英文)：The subject of this research group is the geographical research of the commons. We divide researchers into three groups and intergrate their results. The group of ideas and historical research investigated some conflicting aspects of the commons in European and Japanese public spaces. The group who treated of the theoretical and methodological approaches to the commons researched the framework to study the various types of the commons(tangible and intangible), focusing on the complex relations between materialities and representations. The group of social practices research studied the power relations between the control or surveillance and the social practices of the making the various commons.

研究分野：人文地理学

キーワード：コモンズ 地理思想史 空間スケール 社会地理学 文化地理学

1. 研究開始当初の背景

(1) 「コモンズ(共有財)」については第二次世界大戦以前から、地理学を含む人文社会科学で多くの研究が蓄積されてきた。しかし1990年代以降、その再編成と解体が世界規模で急速に進んだことによって、世界各地でさまざまな紛争が生じており、コモンズをめぐる現実の状況と学問的関心は新たな段階を迎えた。

(2) コモンズをめぐる学術的な議論は、近年従来の土地や水などの「自然コモンズ」ととどまらず、インフラストラクチャーなどの「建造コモンズ」や社会関係と場所の記憶・表象といった「文化コモンズ」、また「コモンズ形成の社会的実践(コモン化)」の役割などにも拡大している。さらに、コモンズを解体する手段やその共同管理をめぐる空間スケールも複雑化しており、コモンズをめぐるこれまでの議論の再検討を踏まえて、新たな研究枠組を構築し、それに基づく経験的研究の必要性が認識されるようになった。

2. 研究の目的

本研究は、「コモンズ」および「コモンズ形成の社会的実践」をめぐる思想・歴史、理論・方法論、社会的実践の三つの観点の諸問題を、近年の地理思想史や文化・社会・政治・経済地理学の理論・方法論の成果を踏まえて捉え直し、コモンズの解体と再編成が進んできた近・現代社会の状況を批判的に考察するための、新たなアプローチと経験的研究の可能性を開拓することを目的としている。

(1) 思想・歴史研究では、おもに19世紀から20世紀前半のヨーロッパと日本およびその植民地を対象にして、コモンズの再編成の歴史過程やそれをめぐる思想の社会的脈絡などを明らかにする。

(2) 理論・方法論研究では、近年の英語圏を中心とした文化・社会地理学および地理思想史の研究成果を批判的に検討したうえで、とくに物質性、身体性、空間の社会的生産、「空間スケールの政治」などを視野に組み込んだ理論・方法論の構築を目指す。

(3) 社会的実践研究では、コモン化における身体的実践の役割、コモンズとしての「社会関係(資本)」の地域的文脈、場所の表象や記憶の歴史遺産化と国民国家形成などの諸問題を検討する。

3. 研究の方法

まず研究分担者・連携研究者は、思想・歴史系、理論・方法論系、社会的実践系の三グループのいずれかに所属して、各研究課題を担当し、グループ内でその成果を相互検討する。次にグループ間での討論や批判を通して、研究成果の統合を図り、さらに国際学会などでの発表を通じて、その有効性や学術的意味をできるだけ広い文脈において再吟味するようにした。各研究者は、歴史資料や文献などの収集と内容分析、またフィールドワーク

による情報収集によって研究を進めた。

4. 研究成果

(1) 思想・歴史研究について以下の知見が得られた。

地理学的な知と地理学者の実践が、19世紀後半から20世紀前半のヨーロッパの公共空間・コモンズの構築において一定の役割を果たしていたことが明らかとなった。たとえば、植物園や菜園などの建造・文化コモンズの形成とその際の人々の実践が、植民地からの新たな知の導入とその解釈、異文化に対する共有されたイメージの形成などに大きな影響を及ぼしていたことが明らかとなった。

近代日本について、19世紀後半に伝染病流行や食料価格の騰貴といった社会危機に直面した都市民衆が取った社会的実践と行政との矛盾した関係が明らかとなった。建造コモンズが整備されていない段階で、行政は民衆のこれまでの社会関係コモンズに依拠しながら対策を取ったが、逆に民衆はこの関係に基づいて、独自の実践を行うことで、時に権力と激しく対立することになった。こうした社会関係コモンズの二重性については、今後さらに検討が進められるべき課題であると思われる。

第二次世界大戦中の日本の軍部および国策形成に関与した地理学者などによる、植民地におけるコモンズの収奪と、地域情報の調査と生産、その表象方法、情報統制、イメージ操作など広義での文化コモンズの形成と拡散の実態が明らかとなった。なお、この問題は戦後の日本企業の活動や人々の外地イメージなどを考えるうえでも重要な問題であると考えられる。

(2) 理論・方法論研究について以下の知見が得られた。

コモンズをめぐる諸問題を分析するうえで、従来の自然と文化・社会、身体と精神といった二分法的理解の問題点とその限界が明らかとなった。自然の社会的生産、「物質性」、身体の可塑性・文化性などの理論的研究を再検討することによって、新たな世界の見方を、かつての単純な一元論に戻ることなく、コモンズ研究を通して構築する必要性が確認された。とくに「コモン化(社会的実践)」概念をより精緻なものにすることで、広義の「労働」概念を刷新すること、社会・文化コモンズを国家の行政機能の補完としてのみ位置付けるのではなく、国家との緊張関係において把握し、国家の権能を変化させる可能性をもった実践として把握すること、「関係」と「もの」の両方に着目した「共有の政治」を構想すること、などが新たな方法論を構築する際に中心的な論点となることが明らかとなった。

コモンズの管理や支配をめぐる対立と協同を考えるうえで、空間スケールの政治という視点がもつ重要性が明らかになった。こ

れまでのコモンズ研究では、比較的小規模な集団の事例が基本モデルとされる場合が多かった。しかし空間の規模が局所から地球へと拡大すると、その管理をめぐる実践とシステムも変化せざるを得ず、空間スケール間で矛盾や対立が生じる。したがって、ひとつのスケールでの実践を特権化してしまうのではなく、重層的かつ相互浸透的な空間スケールを視野に入れて、コモンズ及びコモン化の可能性と限界を検討することが重要である。また逆にコモンズの研究が、従来の「空間スケールの生産をめぐる政治」論を組み換え、その内容をより豊かにする材料と視点を提供しうるものであることが確認された。

(3) 社会的実践研究について以下の知見が得られた。

身体を媒介とした場所の占拠や空間的実践が、コモンズの形成や再創出にとって重要な社会的実践のひとつであることが明らかとなった。たとえば、行政権力による都市空間の収奪に対する住民の場所を拠点とした対抗運動(ブラジル)、現代日本の反基地運動における座り込み、遍路にみられる祈り、都市住民による祭礼の実践などにおける身体的実践と集合的記憶の形成、街歩きの実践などで、いずれも身体性を媒介として社会関係が形成、強化され、対抗のひとつの基盤となっていた。さらに、こうした実践を物質的コンテクストの関係や権力関係に位置づけることで、「コモン化」の可能性および限界がより明確に議論できると思われる。

コモンズとしての景観・風景のイデオロギー性と、それをめぐって形成される新たな社会関係の性格が明らかとなった。棚田などの風景表象とナショナリティの結託が問題となる一方、こうした風景を維持するコモン化の社会的実践を介して生まれた新たな関係性がこうした結託を破り、地域の現在の状況により即した実践を生み出す可能性をもつことが明らかとなった。

現代ヨーロッパ(ベルギー)での、外部からのスティグマ化された地域表象の形成と、それに対抗してコモンズとしての地域を守る住民運動の戦術が明らかとなった。地域住民が「移民」と表象され、社会の外部に排除される過程、現在の脅威が国内での社会問題であるにもかかわらず、外の「異教徒」によってもたらされるという社会心象の形成、それに対抗する地域住民のコモンの生活実践とその記憶の呈示など、現在のヨーロッパの社会問題を理解するうえで重要な論点が明らかとなった。

社会関係コモンズが地域福祉や地域社会の活性化に果たす両義的な役割が明らかとなった。社会関係や場所記憶の維持とその強さが、さまざまな地域活動のありようにプラスの影響を及ぼす一方で、逆に前者が新たな社会関係の形成にとって制約となりうる場合もあり、この両義性を考慮して、社会関係や文化コモンズを他のコモンズや社会実

践と関係づける必要性がある。

(4) 以上の成果の一部を以下の報告書にまとめた。

Akio, ONJO ed.: *Power Relations, Situated Practices, and the Politics of the Commons. Japanese Contributions to the History of Geographical Thought* 11, Institute of Geography, Kyushu University, 92p.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 20 件)

ONJO Akio, The Politics of Urban Festivals and Community in Postwar Japan: Hakata Gion Yamakasa in Fukuoka City, *Japanese Contributions to the History of Geographical Thought*, 査読無、Vol.11、2017、pp.75-92

NAKASHIMA Koji, Who Stopped the US Base Construction? *Japanese Contributions to the History of Geographical Thought*, 査読無、Vol.11、2017、pp.5-16

FUKUDA Tamami, Rural Landscape with Rice Terraces and the Politics of Aesthetics, *Japanese Contributions to the History of Geographical Thought*, 査読無、Vol.11、2017、pp.17-32

MIZUOKA Fujio, British Colonialism and 'Illegal' Immigration, *Japanese Contributions to the History of Geographical Thought*, 査読無、Vol.11、2017、pp.33-66

水内俊雄、地域福祉を下支えする「一時的な生活支援」の新たな可能性、日本の地域福祉、査読無、30 巻、2017、pp.31-50

山崎孝史、境界、領域、「領土の罫」 概念の理解のために、地理、査読無、61 巻、2016、pp.88 - 96

遠城明雄、自然・都市化・インフラストラクチャー 「都市政治生態学」に関する覚書、史淵、査読無、153 輯、2016、pp.117-149

SHIMAZU Toshiyuki, The Modern Atlas as Diplomatic Gift: Vandermaelen's Atlas de L'Europe and Dutch-Japanese relations in the Mid-Nineteenth Century, *Maps in History*, 査読有、Vol.54、2016、pp.12-14

高木彰彦、訪日外国人の増加と国境地域の変容 石垣島の事例、史淵、査読無、153 輯、2016、pp.87-115

源 昌久、兵要地誌図と兵要地誌との関連について 日本本土の事例を通じて、空間・社会・地理思想、査読無、19 巻、2016、pp.49-61

柴田陽一、「満州」の環境史研究の動向と今後の課題 『「満州」の成立』と『20 世

紀満州歴史事典』の検討から、Journal of Manchurian Studies、査読無、Vol.19、2015、pp.266-281

遠城明雄、伝染病・都市社会・衛生組合
明治期の仙台を事例に、史淵、査読無、
152 輯、2015、pp.123-174

SHIMAZU Toshiyuki、War, Peace and a
Geographical Internationalism: The 1871
Antwerp International Geographical
Congress、*Geographical Reports of Tokyo
Metropolitan University*、査読有、Vol.50、
2015、pp.97-105

森 正人、祈りの意味・物質・身体 四
国遍路の政治学、史林、査読有、98 巻、
2015、pp.143-171

桔梗 聡・水岡不二雄、空間の私有と管理
への抵抗 ブラジルの空間所有のあり
方からの一考察、空間・社会・地理思想、
査読無、18 号、2015、pp.3-16

福田珠己、「自然」は自然なものか？ 近
年のランニング・ブームに関する一考察、
経済地理学年報、査読有、60 巻、2014、
pp.301-312

NAKASHIMA Koji、Re-appropriating the
Grassland: toward an alternative
production of Nature for changing
militarized reality、人文地理、査読有、
66 巻、2014、pp.77-91

TACHIBANA Setsu、The Capture of Exotic
Natures: Cross-cultural knowledge and
Japanese Gardening in early 20th century
Britain、人文地理、査読有、66 巻、2014、
pp.4-18

MORI Masato、The Localness, Materiality,
and Visuality of Landscape in Japan、
人文地理、査読有、66 巻、2014、pp.34-47

TSUTSUMI Kenji、Marginality and
Sustainability of Mountainous Village
and Forestry、*Social Capital and
Development Trends in Rural Areas*、査
読有、Vol.9、2014、pp.39-48

〔学会発表〕(計 20 件)

NAKASHIMA Koji、Anti-Base Movements from
Lifeworld: Opposition movement against
the land requisition by the US forces in
the 1950s Japan、The 8th East Regional
Conference in Alternative Geography、
2016.12.8.香港(中国)

ONJO Akio、The Politics of Human Excreta.
The 8th East Asian Regional Conference in
Alternative Geography、2016.12.7 香港(中
国)

SHIMAZU Toshiyuki、Stigmatizing
Molenbeek: Terrorism and the negative
construction of place image in Japanese
media discourse、The 8th East Asian
International Geographical Conference
in Alternative Geography、2016.12.7.香
港(中国)

ONJO Akio、Sanitation, Modernity and
Subject: Contradictory processes of
introduction of new system in Modern
Japan. 33rd International Geographical
Congress、2016.8.24 北京(中国)

FUKUDA Tamami、Photography, the Rural
Landscape, and Geographical Imagination
in Japan in the Early Twentieth Century、
33rd International Geographical Congress、
2016.8.24、北京(中国)

OSHIRO Naoki、Aspects of Borders that
create discontinuity in the Ryukyu
Archipelago: a study of cultural
territoriality、33rd International
Geographical Congress、2016.8.24.北京
(中国)

YAMAZAKI Takashi、How our city should be
dissolved: Osaka Metropolis Plan as the
politics of rescaling、33rd International
geographical Congress、2016.8.24.北京
(中国)

TAKAGI Akihiko、New Dynamics of Border
Regions in Asia: A case of Ishigaki
Island in Japan、IGU Commission on
Political Geography Pre-Conference、
2016.8.19、広州(中国)

TSUTSUMI Kenji、Coal Miners and Social
capital around Them: Cases of Miike and
Takashima、The 13th Workshop on Social
Capital and Development Trends in the
Japanese and Swedish Countryside、
2016.6.17.キルナ(スウェーデン)

遠城明雄、1913 年の下関市における騒擾に
ついて、2015.11.15.2015 年度人文地理学
会、大阪大学(大阪府・吹田市)

NAKASHIMA Koji、Forestry development in
Borneo and a Fact of Tropical Forest、
3th Conference of East Asian
Environmental History、2015.8.24.神奈
川大学(神奈川県・横浜市)

OSHIRO Naoki、Space coming to time: on
the translation of the peripheral into
national context in modern Japan、
IGU2015 Moscow Regional Conference、
2015.8.20.モスクワ(ロシア)

YAMAZAKI Takashi、The Spatial Control of
Vices in the U.S. Military Outpost、
IGU2015 Moscow Regional Conference、
2015.8.18.モスクワ(ロシア)

SHIMAZU Toshiyuki、Creating Japanese
Landscape in the German Crystal Palace:
Edmund Naumann and the 1887 Japanese
Art Exhibition in Munich、16th
International Conference of Historical
Geographers、2015.7.6.ロンドン(英国)

TACHIBANA Setsu、Making English Gardens
in Japan 1860-2010: ideas, practice and
modernity. 16th International Conference
of Historical Geographers、2015.7.6.ロ
ンドン(英国)

FUKUDA Tamami、Gender and Historical Geography of Japan: Current conditions and prospects、16th International Conference of Historical Geographers、2015.7.6.ロンドン(英国)

森 正人、モビリティ、マテリアリティ、アフェクト、2014 年度人文地理学会、2014.11.8. 広島大学(広島県東広島市)

NAKASHIMA Koji、Conditions of Constructing Peace: some cases of the anti-base movements in Japan、IGU2014 Jagiellonian Regional Conference、2014.8.22. Jagiellonia(ポーランド)
SHIMAZU Toshiyuki、War, Peace and A Geographical Internationalism、IGU2014 Jagiellonian Regional Conference、2014.8.21. Jagiellonia (ポーランド)
FUKUDA Tamami、Woman's Body, Nature, and Beauty: Reading Japan's recent Running Boom、IGU Gender and Geography Commission、2014.8.16. ワルシャワ(ポーランド)

〔図書〕(計 9 件)

森 正人、新曜社、展示される大和魂 国民精神の系譜、2017、278

水内俊雄・福本 拓、法律文化社、都市の包容力、2017、90

柴田陽一、清文堂出版、帝国日本と地政学 アジア・太平洋戦争期における地理学者の思想と実践、2016、421

佐藤卓巳編、水内俊雄 他、岩波書店、岩波講座 現代 5 歴史のゆらぎと再編、2015、288

竹中克行編、遠城明雄、大城直樹、山崎孝史他、ミネルヴァ書房、人文地理学への招待、2015、296

大橋昭一ほか編、大城直樹、橘セツ 他、ナカニシヤ出版、観光学ガイド、2014、303

森 正人、中央公論新社、四国遍路 八十八ヶ所の歴史と文化、2014、204

池口明子・佐藤廉也編、遠城明雄 他、海青社、身体と生存の文化生態、2014、372

岩下明裕編、山崎孝史 他、北海道大学出版会、領土という病 国境ナショナルリズムへの処方箋、2014、254

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

遠城 明雄(ONJO Akio)

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号: 00243866

(2) 研究分担者

島津 俊之(SHIMAZU Toshiyuki)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号: 60216075

橘 セツ(TACHIBANA Setsu)

神戸山手大学・現代社会学部・教授

研究者番号: 70441409

大城 直樹(OHSHIRO Naoki)

明治大学・文学部・教授

研究者番号: 00274407

福田 珠己(FUKUDA Tamami)

大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授

研究者番号: 80285311

中島 弘二(NAKASHIMA Koji)

金沢大学・人間科学系・准教授

研究者番号: 90217703

森 正人(MORI Masato)

三重大学・人文学部・准教授

研究者番号: 10372541

(3) 連携研究者

源 昌久(MINAMOTO Shokyu)

淑徳大学・総合福祉学部・教授

研究者番号: 80104826

水岡 不二雄(MIZUOKA Fujio)

一橋大学名誉教授

研究者番号: 30199989

高木 彰彦(TAKAGI Akihiko)

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号: 90197054

水内 俊雄(MIZUUCHI Toshio)

大阪市立大学・都市プラザ・教授

研究者番号: 60181880

堤 研二 (TSUTSUMI Kenji)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号： 20188593

山崎孝史 (YAMAZAKI Takashi)
大阪市立大学・文学研究科・教授
研究者番号： 10230400

今里 悟之 (IMAZATO Satoshi)
九州大学・人文科学研究院・准教授
研究者番号： 90324730

(4)研究協力者

山野 昌彦 (YAMANO Masahiko)

柴田 陽一 (SHIBATA Yoichi)